



ケニア国より良い生活のための 地方水衛生実施能力強化プロジェクト プロジェクトニュース



2025年2月12日 水汲み労働の軽減を祝う竣工式の開催（マチャコス郡）

本プロジェクトでは、既存給水施設の改善や水汲み労働の軽減を目的として、①燃料費の支出削減のため、施設の動力源を発電機から太陽光発電へ切り替え、②古くなった施設の更新（例えば老朽化した動力ポンプの交換）、③ハンドポンプから動力ポンプに切り替える施設の動力化（アップグレード）などを既存給水施設に対して実施しています。

プロジェクト初年度（2024年4月～2025年3月）では、対象郡の一つであるマチャコス郡で複数施設の更新、太陽光発電の導入（写真1）、ハンドポンプの動力化（写真2）を実施しました。これにより、給水量の増大や地域住民の水汲み労働の軽減に寄与することが期待されます。このうち、2つの施設において、2025年2月12日にその更新や動力化などを祝うための竣工式を、地域住民や同郡の地方政府の方々と開催しました。



写真1.太陽光発電の導入



写真2.ハンドポンプの動力化

竣工式では、地域住民、教会、学校などの関係者が参加し、これら給水施設の更新、太陽光発電の設置、動力化に対して、JICAとマチャコス地方政府への感謝の言葉が述べられました。水汲み労働の軽減により、コミュニティに大きな安心をもたらしているとのコメントもありました。また、地方政府からは、JICA、FundiFix（本施設の工事を担当）、地方政府の協力により、これら施設の更新、太陽光発電の設置、動力化によって、地域への給水量の増大や水汲み労働の負担軽減が可能となり、地域社会、学校、教会に大きな恩恵がもたらされたことへの感謝の意が示されました。

今後、本プロジェクトでは、これら施設の運営維持管理状況をフォローアップするとともに、衛生啓発活動も進めていきます。また、さらに多くの施設のアップグレードや更新を実施し、安全な水の安定的供給や水汲み労働の軽減に貢献していきます。



竣工式にて歓喜する住民



施設動力化後の水汲み



植林セレモニーも実施